

## 2016年度 学術交流支援資金報告書

研究課題名	外国語電子教材作成支援 プロジェクト No. 3-2 日本語ベーシック 1・日本語ベーシック 1 (演習)
研究代表	杉原 由美
所属	総合政策学部 (准教授)
研究協力者	伴野 崇生 (政策・メディア研究科 特任講師)

### 1. 研究(本電子教材作成)の背景および目的

SFC で学ぶ留学生・帰国生が多様化している。総合政策学部でも GIGA プログラムが開始されたことだけにとどまらず、協定学生や ABE イニシアティブ<sup>1</sup>による留学生など、以前とは異なる属性・背景をもった多様な学生が SFC で学ぶようになってきており、その数もまた増えてきている。そのような中で、日本語入門～初級前半レベルの学習者のための日本語教材、特にクラス外での学習をガイドしてくれるような教材のニーズが高まってきている。

本教材の目的は、そのような学習者が「SFC とその周辺地域で生活するのに最低限必要な行動を達成するために必要な日本語」を学ぶことができるようになることである。より具体的には、少ない文法・語彙知識を総動員しながら何とか SFC 内外でサバイブしていくための日本語力の養成である。

### 2. 教材作成の成果

<https://sites.google.com/keio.jp/nihongo/>

出演者の肖像権に配慮し、現時点では塾内限定公開 (keio.jp へのログインが必要)



図 1 トップ画面

<sup>1</sup> アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABE イニシアティブ) 「修士課程およびインターンシップ」プログラム Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth (<https://www.jica.go.jp/regions/africa/business/internship.html> 参照)

## 2-1. 使い回し可能な表現(Useful Phrases)パート

本教材は、少ない文法・語彙知識を総動員しながら何とか SFC 内外でサバイブしていくための日本語力の養成を目指したものである。具体的には、「～です・～ます」とその活用形（でした・ました・じゃありません・ません 等）、様々な場面で使い回しが可能な表現、助詞を使いこなしながら、何とか日本語で生活をしていける状態を目指して作成された。

図 2 に示したページでは、「なんですか」「どうぞ」「そうですか」など、様々な場面で使い回しがきくフレーズを学ぶことができる。また、もともとの予定にはなかったものであるが、日本語クラスや日本語チューター活動に参加している留学生・帰国生からの意見・要望で、「アレルギーについて伝える表現」などを追加した。



図 2 使い回し可能な表現

## 2-2. 会話パート

使い回し可能なフレーズを単体で示すだけでは、なかなか使用場面が想定しづらいという問題を克服するため、それらを含む流れのある会話例についても同様に示すことにした。

これにより、「使い回し可能な表現」だけでは簡単すぎると感じる学習者にも教材を使ってもらえる/使おうというモチベーションのわく教材にできるようになる。



図 3 会話パート

## 2-3. 小テスト (Quiz) パート

keio.jp(google フォーム)を利用することで、非常に簡単に小テストを作ることが可能である。本教材は keio.jp 上に置かれているため、google の他のサービスとも連動させやすい。現時点では学習者がすぐに解答をチェックできるよう、選択式の問題しか用意していないが、今後授業などと連動させる中で内容的により充実させていければと考えている。

## 3. 今後の課題・展望

今後の課題は「使い回し可能な表現」「会話」「クイズ」を質的にも量的にも充実させていくことであるが、それに向けた具体的なアクションとして、まずは以下の二つの場面での活用・改善を考えている。

### 3-1. 日本語チューター活動における活用（2017 年度春学期～）

2017 年度春学期には、本教材を日本語 SA/TA による「日本語チューター活動」に導入・活用を行い、さらなる改善を行う。

現時点ではベーシック 1・ベーシック 1（演習）は秋学期のみの開講であるが、全くのゼロビギナーを含め、ベーシック 1 相当レベルの大学院生は 4 月にも入学してくる。これまで日本語研究室の SA/TA が日本語チューターとして日本語学習をサポートしてきたが、SA/TA は言語教育のエキスパートではないため、それだけでは限界がある。また SA/TA の負担も大きい。本教材を用いることで、学習者が自習する際に役立つことはもちろん、日本語チューターとともに見ながら学習することで、学習者にとってもチューターにとってもガイドとなり、学習を無理なく進められるようになるだろう。

学習者・SA/TA の両方からフィードバックを受けることは、利用者の視点をより教材に反映させることにつながる。そのことは当然、本教材の質を高めることに直接つながるものである。

### 3-2. 日本語ベーシック 2（演習）での試用（2017 年度春学期）

本教材の主対象者はベーシック 1 レベルの学習者であるが、ベーシック 2 レベルの学習者であっても本教材が取り上げた項目や本教材のビデオの内容について理解してはいても実際の場面では使えないという学習者も相当数いる。

本研究の研究協力者である伴野は 2017 年度春学期に「日本語ベーシック 2（演習）」という授業を担当する予定となっている。本教材を作成した側として実際に授業でも使い、また、学習者にも宿題等授業外での学習に使ってもらうことを考えている。授業内外での反応を見たり直接フィードバックをもらったりすることで、日本語チューター活動とはまた質の異なる形で教材改善につなげることができるだろう。

すでに一部動画教材については 2016 年度秋学期にも試用を始めているが、まだまだ改善の余地はある。上に示した形での改善を経て、2017 年度秋学期の日本語ベーシック 1・日本語ベーシック 1（演習）で本格的に運用できる体制を整えていきたい。

文責：伴野崇生（とものたかお） 政策・メディア研究科 特任講師